

## 連載 オブジェクト指向と哲学

### 第 67 回 時間と空間 - 音楽と絵画

河合 昭男

<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~Kawai>

マルク・シャガール (Marc Chagall, 1887 - 1985) の作品には、楽器を演奏する人々がそれとなく周辺に描かれているものが多いです。位置や向きなど重力の及ばない夢幻の世界で音楽が奏でられています。NY メトロポリタン歌劇場には、音楽をテーマにした 2 つの大壁画「音楽の勝利 (The Triumph of Music)」と「音楽の起源 (The Sources of Music)」が圧倒的存在感で飾られています。パリ、オペラ座ガルニエ宮にもオペラ作品をテーマにした大天井画があります。

#### ●絵画と音楽

絵画で音楽を表現する、聴覚を視覚で表現する、シャガールにはどのように聞こえていたのか鑑賞者は視覚でそれを受け取ります。

「音楽の勝利」とは何に勝利したのでしょうか、芸術として音楽が絵画に勝利したとシャガールが考えたとも思えません。逆に「絵画の勝利」という音楽は多分ないのだと思いますが、芸術として絵画も音楽も優劣があるとは思えません。

ムソルグスキーの「展覧会の絵」は、絵画を音楽で表現します。聴覚で視覚を表現します。絵画とは何か、視覚とはどういうものか自身で全く経験のない辻井伸行さんがこの曲を演奏しています。ひたすら聴覚のみで一枚一枚の絵のイメージを捉えます。

モーツァルトは、作曲が早いことで有名です。曲のイメージが一瞬に映像として心の中に明確に浮かび、作曲は一幅の絵を楽譜に書く単純作業だとしています。その絵は細部まで明確で、人と話をしながらでも作業できると言っていたそうです。

絵画と音楽は密な関係がありそうです。芸術家は心に浮かんだイメージを絵画や音楽として表現し、鑑賞者は情報が眼から入るか耳から入るかという入力経路の違いはあるが、脳で情報処理され、最終的にそれを人は心で感じ取ります。絵画や音楽は、芸術家の心と鑑賞者の心をつなぐメディアです。感動を伝えるメディアです。

#### ●草枕 - 時間と空間

画家の心に何かモヤモヤとしたものが浮かんでくる。画家としては絵にしたいが描けそうにない。ならば音楽か、詩か、以下夏目漱石「草枕」より抜粋します。

--

鉛筆を置いて考えた。こんな抽象的な興味を画にしようとするのが、そもそもの間違いである。人間にそう変りはないから、多くの人のうちにはきっと自分と同じ感興に触れたものがある、この感興を何らの手段かで、永久化せんと試みたに相違ない。試みたとすればその手段は何だろう。

--

自分の興味はあまりにも抽象すぎて絵にならない。しかしなんとか取り出したい。ソクラテスなら産婆術で取り出したかも知れません。

--

たちまち音楽の二字がぴかりと眼に映った。なるほど音楽はかかる時、かかる必要に逼られて生まれた自然の声であろう。楽は聴くべきもの、習うべきものであると、始めて気がついたが、不幸にして、その辺の消息はまるで不案内である。

--

自分には不案内な音楽、その次の候補が詩となる。これならなんとかなる。しかし、音楽と詩には絵画にはない時間軸があるがどうすればよいか。

--

余が嬉しいと感ずる心裏の状況には時間はあるかも知れないが、時間の流れに沿って、逡次に展開すべき出来事の内容がない。一が去り、二が来り、二が消えて三が生まれるがために嬉しいのではない。初から窈然として同所に把住する趣きで嬉しいのである。

--

詩には時間があるが、画家として自分の表現したいものは時間の流れではない。

--

すでに同所に把住する以上は、よしこれを普通の言語に翻訳したところで、必ずしも時間的に材料を按排する必要はあるまい。やはり絵画と同じく空間的に景物を配置したのみで出来るだろう。

--

時間要素のない詩を作れば良い。そこから絵画にできる。

## ●視覚型と聴覚型

渡辺慧「時」は、物理学者による時間についての哲学的考察を集めて一冊の書籍したものです。  
[1]は 1947 に発刊された原著の復刻改訂版ですが、テーマは普遍的なものです。

--

人間の性格は「視覚型」と「聴覚型」に分類できる。その関係は、芸術で言えば「絵画型」と「音楽型」に、認識形式からは「空間型」と「時間型」に対応する。( [1]より要旨抜粋)

--

シャガールも草枕の主人公も画家ですが、前者は絵画で音楽を表し、後者は絵を直接描くことができず苦しみ、音楽も専門外で「時間型」詩から「空間型」絵画に入ることを試みる。

## ●UML

UML はソフトウェアと言う目に見えないものを可視化するツールです。[1]の分類では、全般的には「視覚型」、「絵画型」、「空間型」ということになります。

--

「空間型」対「時間型」の分類は「具体的」対「抽象的」、「静的」対「動的」に対応する。( [1]より要旨抜粋)

--

UML のダイアグラムは大きく構造図と振る舞い図に分類されます。構造図は[1]の分類なら空間型に入ります。クラス図は、問題領域に存在する概念の関係を表すことができます。草枕なら『絵画と同じく空間的に景物を配置したのみで出来る』で、景物は概念です。

振る舞い図はそう単純ではありません。ステートマシン図は動的モデルで「時間型」に入ります。

相互作用図のシーケンス図とコミュニケーション図は、見かけは異なりますがメッセージの流れを時系列で表すモデルという点では同じです。だから「時間型」と言えそうですがこの 2 つのダイアグラムの使い分けは、前者は厳密なモデルに、後者は直感的にわかりやすいモデルとして用いられ、2 つを併用することもできます。草枕なら『初から窈然として同所に把住する趣きで嬉しい』のがコミュニケーション図です。

[1]の分類は「幾何学的」対「解析的」にも対応します。2 つの相互作用図をこの観点で比較するとシーケンス図は「解析的」、「時間型」でコミュニケーション図は「幾何学的」、「空間的」と

なりそうです。

ユースケース図は、ユースケースの集まりとしては一見空間型ですが、「幾何学的」対「解析的」で比較するなら、システムに提供するサービスを分析して切り出しているのは「解析的」作業と言えます。従って「時間型」です。さらに付け加えるなら、個々のユースケースは外部のアクターとシステムとの一連の対話であり解析的／時間型です。

アクティビティ図も解析的／時間型に入りそうです。

表 67-1 に主要な UML ダイアグラムの[1]による分類をまとめます。

空間型／静的／幾何学的	時間型／動的／解析的
構造図全て コミュニケーション図	ステートマシン図 シーケンス図 ユースケース図 アクティビティ図

表 67-1 UML ダイアグラムの「時間型／空間型」分類

以下、次回

#### 参考書籍

[1]渡辺慧、時、2012、河出書房新社

[2]夏目漱石、草枕、2011、青空文庫